

<特別講義> 『高齢者の心理と歯科治療』 (東日本学園大学歯学会後援特別講義)

著者名(日)	林 都志夫
雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	9
号	2
ページ	129
発行年	1990-12-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00007566/

〔特別講義要旨〕

東日本学園大学歯学会後援特別講義

平成2年7月2日 11:10~12:30

D-1講堂

講 師

東京医科歯科大学名誉教授

林 都志夫 先生

演 題

『高齢者の心理と歯科治療』

我が国における人口の高齢化は著しく、来世紀初頭には4人に1人が65歳以上との予測がなされている。

高齢者の歯科診療に際し、われわれは高齢者の健康実態とともにその身体的・精神的特徴、すなわち、加齢に伴う全身の形態的・機能的変化および老年患者の心理的特性についての理解が必要である。

老人疾患の特徴としては、多病性と多愁訴、非定型の臨床病態、成人病の存在、慢性潜在性で経過が長いことなどが挙げられる。

高齢者の精神的变化に関しては、近年、痴呆が注目されている。これには脳血管性痴呆、脳動脈硬化症、多発性梗塞性痴呆と呼ばれる血管性の痴呆と大脳全体のび慢性萎縮を主とする老人性変化が認められるアルツハイマー型痴呆と呼ばれるものがある。また、非器質性精神疾患として、老年期うつ病、老年パラノイアなどがみられる。

高齢者のpersonality（性格動向）としては、

自己中心傾向、心氣的傾向、猜疑的傾向、保守的傾向、愚痴的傾向が認められる。なお、personalityとは、個人がその内的なものを表現するに当って外界に対して用いる仮面的なもので、生物的、心理的、社会的な各側面が結合されたものであり、精神障害のあらわれ方と密な関連性があるとされている。

高齢者の歯科診療に際しては、温かい人間的交流を維持し、希望や存在価値を与えることが必要である。高齢者が充実した生活を送るための条件として、身体的・精神的健康の確保、経済的基盤の安定、社会の変化に適応しつつ人生を楽しむ能力をもつこと、家族・近隣社会・職場などにおいて共感できる人間関係が形成されていること、などが挙げられているが、これらの条件を満たすためには、毎日の楽しい食事と会話のある日常生活こそが基本的な因子であり、顎口腔系の健全性と正常な機能の維持あるいは回復を図るべきである。